

[北方林業研究室]2. ミズナラ萌芽二次林整理試験

青木, 尊重
九州大学農学部附属演習林 : 助教授

中島, 誠
九州大学農学部附属演習林 : 助手

今田, 盛生
九州大学農学部附属演習林 : 教務員

<https://doi.org/10.15017/1456198>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和39年度, pp. 75-77, 1965. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :



2. ミズナラ 萌芽二次林整理試験

青 木 尊 重 中 島 誠
今 田 盛 生

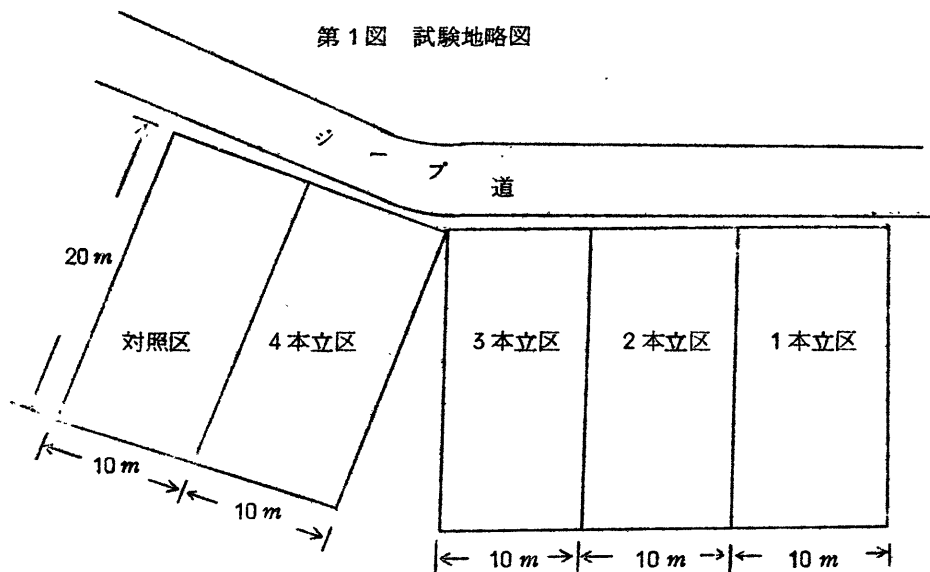
I 研究の目的

ミズナラ林に対する施業法の体系的試験、研究を行うことは本演習林として、きわめて重要な任務であることは除伐試験の目的でのべたところである。

その施業体系のうち、本試験は幼令ミズナラの萌芽二次林に対する整理、撫育方法を見出すのが目的である。ただし、本試験においては、第一段階として、5年生前後の萌芽林における仕立本数についてのみ攻究するものである。

II 方 法

本演習林第9林班、係小班に約15haにわたつて、5年生前後の優れたミズナラの萌芽二次林があるが、本試験地はその中に、次の第1図の如く、1本立区、2本立区、3本立区、4本立区、対照区を設定したものである。



測定は樹高と地上50cm高の直径とを毎木測定し、プロット内の株数とその1株毎の萌芽本数も記録した。測定終了後、次のような萌芽整理基準によつてそれぞれ、1、2、3、4本立区、対照区を設定した。なお、実生の優良萌芽（ミズナラ、センノキ）は、そのまま保

残した。

① 不良樹種の萌芽または更新樹を伐除する。

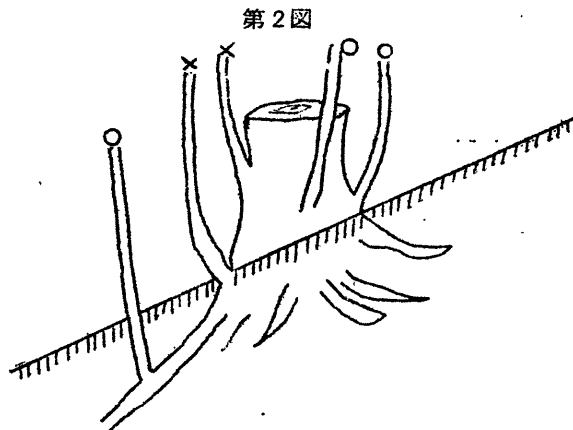
不良樹種とは、シラカンバ、ヤエガワカンバ、キハダ、エンジュ、シナノキ、サクラヤナギ等である。

② なるべく形質のよい萌芽勢の強いものを保残対象とする。

③ 表土内からの萌芽または地表に近接する萌芽を残す。

④ 傾斜地に伐根がある場合には、傾斜の上部の萌芽をなるべく保残する。すなわち、④、

③を図示すれば第2図のとおり。



なお、試験地を1個所のみにし、比較的小面積にしたのは、この萌芽林が非常に均一な林相を呈しているからである。測定は2年毎に行う。

Ⅱ 経 過

昭和39年6月上旬に試験地設定を行い、萌芽整理基準により保残萌芽を選定しながら、萌芽整理を同時に実施した。その概要は第1表のとおりである。

Ⅳ 今後の見通し

萌芽整理においては単に何本立が適当であるということではなく、成長が旺盛であるのみならず、枝張りの少ない木を仕立ることであり、さらに整理着手林令は何年生頃かが適当であるということも重要であると考えられる。

したがって、今後は令級の異つた萌芽林についても、同様の試験地を追加設定して、萌芽整理全般にわたって問題点を検討してゆく予定である。

第1表 ミズナラ萌芽二次林試験地概要

	1 本立区			2 本立区			3 本立区		
	試験木	伐除木	全 木	試験木	伐除木	全 木	試験木	伐除木	全 木
総 本 数	本 621	504	1125	480	249	729	620	156	776
平 均 樹 高	m 2.63	1.61	1.66	1.60	1.44	1.55	1.57	1.42	1.54
平 均 直 径	cm 2.2	0.9	1.2	1.0	0.8	1.0	1.0	0.7	1.0
1 株 当 本 数	本 4.3	4.9	4.6	4.4	4.4	4.4	4.7	5.6	4.8
ha 当 本 数	31050	25200	56250	24000	12450	36450	31000	7800	38800

	4 本立区			対 照 区		
	試験木	伐除木	全 木	試験木	—	—
総 本 数	本 945	340	1274	1148	—	—
平 均 樹 高	m 1.52	1.30	1.46	1.69	—	—
平 均 直 径	cm 1.0	0.7	0.9	1.1	—	—
1 株 当 本 数	本 4.4	5.5	4.6	4.3	—	—
ha 当 本 数	46700	17000	63700	57400	—	—

3. 広葉樹二次林の成長推移に関する研究

青 木 尊 重 中 島 誠
今 田 盛 生

I 研究の目的

広葉樹の更新方式としての天然更新は人工更新方式とともに、今後予想される広葉樹時代に対処し、重要課題と考えられるが、幸い本演にはミズナラを主要樹種とする優良二次林に恵れているので、天然更新更に一般二次林作業の基礎資料として、現実二次林の成立推移を解明しようとするもの。

II 方 法

昭和33年5月、第1林班内に20m×50m(0.1ha)のミズナラ二次林(推定林令32